



学びや発達の連続性を保障するために

～子どもの思いに応えるスタートカリキュラム～

中教審特別部会の論点整理（H27. 8）において、幼児教育と小学校教育との連携・接続のさらなる充実が提言されました。

- ① 幼児期から低学年の子どもの発達上の特徴を踏まえ、実態に即した柔軟な指導を行うこと
- ② 学びの連続性を意図した幼児教育との円滑な接続を図ること

が求められています。

年長児として園生活をリードしてきた自信や培ってきた学びの芽生えを、入学後も無理なく発揮していくには？という視点で、園から受け取る情報や見取りをスタートカリキュラムの編成に生かしていくことが大切です。中核を生活科とし、学ぶ意欲を自覚的な学びへと連続させていきたいものです。

スタートカリキュラムの編成・実施に向けて



幼児期の子どもを理解する

学びの芽生え



新しい生活への期待

小学生の姿への憧れ

環境が大きく変わる不安

〇できることがたくさん

- ・手遊び、歌、絵本に親しむ
- ・身の回りのことを自分でする
- ・遊びの中で試す、工夫する
- ・不思議に思ったことを調べる
- ・力を合わせて取り組む

- ・個人差が大きいな。
- ・長時間じっとしていることは難しそうだ。
- ・体全体を使って学んでいるぞ。

一人一人の姿からの出発(参観、連絡会、聞き取り、送付書類の活用)

例えばこんな工夫で..

期待する姿を月・週などで明らかにしスタートカリキュラムをつくる

例・4月第2週

ねらい	学校のさまざまな人と仲良くなる	
	4月11日(月)	4月12日(火)
朝の会	「なかよくなろう」 ・なかよし手遊び ・じゃんけんれっしゃ ・読み聞かせ	「なかよくなろう」・なかよし手遊び ・じゃんけん列車 ・読み聞かせ
1	発達を踏まえた時間・活動の工夫	「がっこうってどんなところ？」 <生活、図工、国語>
2	「がっこうってどんなところ？」 <生活、図工、国語> ・たんけんにてかけよう	生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実の工夫
3	こんなものみつけたよ (絵で伝える、話してみよう)	

自覚的な学び



安心成長自立

- 〇幼児期の経験をつないで自己発揮できる環境を意図的に作りましょう。
- 〇身の回りの人やものに主体的に関わりながら学ぶことを通して「3つの自立(学びの自立、生活上の自立、精神的な自立)」を目指しましょう。



幼児期の豊かな体験と育ちを入学時にゼロにしないという意識を全職員で共有し、現在作成しておられるスタートカリキュラムをよりよいものに見直し、改善していくことが大切です。

各小学校配布の「スタートカリキュラム スタートセット」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)(平成27年3月発行)を参考にしてください。